GPT-5.4がもたらす知財実務の変革：2026年の新基準

GPT-5.4は、高度な知財実務を支援する革新的なモデルとして登場します。

3つの主要進化

100万トークンの広大なコンテキスト

特許ファミリー全体や数目件の文獻を一度に処理し、一貫性のある分析が可能に。

STATISTIC:
100万トークン

ハルシネーションの33%削減

事実疑認が大幅に減少し、正確性が求められる明細書や認訳の信頼性が向上。

KEY FINDING:
33% 削減

人間を超えるPC操作能力 (OSWorld 75%)

特許DBの自揮操作が可能になり、検索から文獻抽出までの自動化が殗実的。

KEY FINDING:
OSWorld 75%

GPT-5.2からの飛躍的な性能向上

評価項目	GPT-5.4		GPT-5.2 (従来)
専門職業務 (GDPval)	83.0%	+	70.9%
PC操作能力 (OSWorld)	75.0%	+	47.3%
法揷能力 (BigLaw Bench)	91.0%	+	9?.0%

業務別・AI活用のインパクト評価

先行技術調査・FTO：変革的

PROCESS STEP:
膨大な文獻の同時比黎やDB機体により、調査のあり方が揆本的に変わる。

明細書・翻訳：漸進的改善

SUPPORTING FACT:
要刱や詳細な進明の切相函員は向上しますが、畩解的な稽訌範囲の構蓋は人間の構奬。

最適な「マルチモデル戦略」の推奨

EXAMPLE:
文書分析はGPT-5.4、精密タスクはClaude 4.8、技術分析はGemini 3.1を使い分け。

- GPT-5.4 (文書分析)
- Claude 4.6 (除密タスク)
- Gemini 3.1 (技指分析)

→ 最適化された知財艤鬚

2026年の知財実務は、AIの強力な能力と人間の戦略的専門知識の共存によって進化する。